

平成28年度

# 会館だより

## ひと夏の経験—海外へ

岩手県学生会館

平成28年11月8日発行



夏休み明け番気払いの様子

すでに夏休みを終え、岩手ではもう冬の足音がしている時期かと思われませんが、各

充実した夏休み？



これは長崎神社のお神輿



学校では大学祭等で活気あふれる時期を迎えています。寮生の皆さんはサークル等の活動で主役になったり、黒子を務めたり、役割はそれぞれのようですが張り切って充実した日々過ごしているようです。会館にも学園祭のポスターが張られています。皆さんで競い合ってよい学園祭を作り上げ、そしてこの時にしか学べないものをつかりとつかみ取ることができそうですよう祈っています。

あつという間の16日間

工藤 里菜

私は今年の夏、16日間オーストラリアへ短期留学に行ってきた。英語力の向上を目指して参加を決めたが、あつという間に時は過ぎ去り、16日間では英語力の向上は難しいと感じた。しかし、この短い期間でたくさんの素敵な方々に出会うことができ、そして様々な学びがあった。シドニーに到着して、大学の友達と離れ

て一人でホームステイ先に向かう時は不安な気持ちもあった。しかし、ホストマザーに温かく迎えられる、不安はすぐ吹き飛んだ。私が聞き取れない時には簡単な言葉で言い直してくれた。私がうまく話せなくても何とか聞き取ってくれた。約2週間、優しく、時には厳しく接してくれたホストファミリーに感謝している。現地の大学では、レベル別で英語の授業を受けた。同じクラスには中国人、ベトナム人、サウジアラビア人がいた。皆優しく、お互い助け合いながら学ぶことができた。

授業は14時に終わるため、放課後や休日に様々な場所に行つてシドニーを満喫した。夜景の綺麗なオペラハウスの側で夕食を食べたり、フェリーに乗って海に行ったり、世界一大きな映画館で映画を観たり、ブルーマウンテンに行ったりと、多くの貴重な体験ができた。

オーストラリアに行ったのは2回目である。高校の時の語学研修は初めての海外とということもあり、ただ流れに身を任せていた。もちろん様々な気づきはあったのだが、心の底から楽しめたわけではなかった。一方、今回の短期留学は自分の意志で申し込み、一人で現地の大学に通い、ホス

トファミリーと連絡を取り合い、バスと電車を使いこなして様々な場所を訪れた。そのためか、高校の時とは比べものにならないほど有意義な時間を過ごすことができた。とはいえ、英語力には課題が残る。今期の経験を踏まえて、長期留学を検討している。短期留学を終え、英語が身近ではなくなつた。しかし、将来を見据えて継続して勉強していきたい。支えてくださったすべての方々に感謝している。ありがとうございました。

#### 夏休みの思い出

阿部美奈子

私は7月31日から8月20日まで韓国にある高麗大学へ短期留学に行つてきました。海外で一週間以上過ごしたことがないので、不安なことがたくさんありましたが自分にとってとても良い経験になりました。

三週間の短期集中プログラムに参加したので、短い時間の中で学ばなければならず、教科書を飛ばしながらの授業でしたが、当然ながら授業も教科書も全て韓国語なので、韓国語の聞き取りと読み取りが韓国に行く前に比べて確実に上がったという実感がありました。

私が勉強していたクラスには、中国人、台湾人、エクアドル人と日本人以外の方が多かったのですが、韓国語での会話に慣れることができませんでした。基本的に月曜日から金曜日の9時から13時まで授業でしたが、火曜日と木曜日は14時から16時まで選択授業がありました。毎日韓国語に触れることができ楽しかったです。

休日には友人と出かけたり、一人でいろいろなどころへ行きました。一人で出かけるのは少し怖かったですが、行きたいところに行くことができましたのでとても楽しかったです。

三週間はあつという間で、まだまだ学び足りなかつたので、次は来年の慶熙大学の10週間の交換留学プログラムに参加したいと考えています。ですが成績優秀者しか行くことができないプログラムなので、日々の学習をしっかりしていきたいと思います。

パーマ

菅原大嗣

ついひと月前にかけたはずのパーマが、フィリピンの熱い暑い日差しのおかげか、あつという間に伸びきってしまった九月の

終わり。いつもお世話になっております担当の高橋さんが響かせる「じゃきつじゃきつ」という快音と、それとともにほらほらと切り落とされていく傷んだ毛先たちを眺めながら、まるで自分を落ち着かせるかのように、私は日本に生きていることを再確認していました。

フィリピン行きプロジェクト参加を決意したのは七月の初め、すでに出発から一か月を切ろうか切らないかというギリギリの時期でした。きつかけは特にはないです。ただ、しいて言うなら夏休みが空いていたということ、そしてどうせならせっかくの長期休暇、のんびんだらりと過ごすより、誰かのために頑張ってみよう、それぐらいの動機だった気がします。私が滞在したのは、フィリピンはセブ島から約三時間ほどの距離にあります(諸説あり)、シキホールという小さな島でした。別名「黒魔術師が棲む島」、フィリピンの人たちの中には存在すら知らない人さえいるという、なんともひっそりとした、けれどとつてもあたたかい島でした。それは決して気候に関してだけでなく、シキホールで出会ったすべての人たちの心でもあります。彼らは日本から来たよそ者の私たちを、明るく優しい笑顔

で出迎えてくれました。あたたかい出迎えの中で私は、二週間ここで現地の子供たちのために頑張るのだという決意を固めました。私たちのボランティアチームが行ったのは小学校低学年との触れ合いを目的とした「BIG ART PROJECT」、中学年を対象にした「科学実験」、そして高学年を対象とした「環境教育」です。その中で私は主に低学年の子を担当したのですが、訪問先で出会う子供たちの笑顔に、活動が進んでいく中である種の達成感のようなものを強く感じていました。「自分が何かをすることで、こんなにも笑顔になってくれるんだ」という、優越感のようなものを。(以下次号に続く)

### 最後の新入寮生紹介

いい加減新入生とは言えませぬね

千葉 義大(一関第一出身)

光陰矢の如し、とはよく言ったもので、桜舞う四月に入寮してから早半年、大学での過ごし方もわかってきて、今度から秋学期が始まっています。それにもかかわらず、「新入寮生」と呼称することすら憚られるような今の時期になるまで「新入寮生からのメッセー

ジ」を書くのをすっぽかしていたことに対し、まずはお詫び申し上げます。

改めまして、千葉義大と申します。現在東京大学理科一類の一年生です。岩手県立一関第一高等学校・附属中学校出身です。

そもそもここに来ようと思ったのは、親に紹介されて、一人暮らしのステップとして良さそうだな、そう思ったからでした。

六年間同じ校舎に通い、ひたすら無為な生活を送ってきた紐人間に、いきなり一人暮らしが送れる道理も無さそう、というのが本音ではありましたが。

附属中学校の話を所望されたので、少し、昔話をいたします。

私は、中学校に二期生として入学しました。入った時に強く頭に残ったことは、「暇そうな四階の三年生教室」「上がいないはずの先輩が初々しいけど先輩してる」「なんだかんだ高校とのつながりが部活以外薄い」「自分より上の、いわゆる上位層が極端に強い」でした。

学校の勉強自体は決してもものすごく早いわけでも難しいわけでもなく、てっきり先取りなどをするものだと思った自分としては、最初は拍子抜けしていたような記憶があります。

勉学方面だと高校生との関わりはほとんどないようなものでしたが、部活では吹奏楽研究部に所属していたので、比較的高校生と触れ合う機会は多かったと思います。三年生がいなかったことも相まって、三年間ってこんなに成長できるものなのか、などということも考えたこともあったような気がします。二年生以降はちゃんと三学年揃っていませんし、高校に関しては普通なので割愛します。

入寮から半年経ってもなお、未だ知らない人なども結構おり、そう人たちとも仲良くやっていたければいいのかな、などと思っております。

これからも、よろしく願います。

### 会館からの連絡

#### ○消防設備点検のお知らせ

11月29日(火) 13:30～ 各居室の煙探知機点検のため室内に入ります。

いつものことですが、室内が乱雑になっていると作業に時間がかかります。是非、整理整頓のうえご協力ください。

#### ○NTTの工事のお知らせ

掲示板でも案内しておりますが、NTTの回線工事のため11月16日(水)午後インター

ネットに接続できません。開始から2時間程度です。NTT以外を利用している方には影響はありません。

#### ○停電のお知らせ

11月15日(火) 13:00～15:00

電気設備の点検のため停電になります。各電化製品に影響が出る可能性がありますので各自対策を講じておいてください。

#### ○OG・OB交流会開催のお知らせ

昨年実施した標記交流会を今年も実施することとなりました。既に幹事から案内したとおり11月23日(水) 16:30からトークセッション、18:00から懇親会となります。

寮生活の一番のメリットは「仲間」。同じ釜の飯を食う、という言葉がありますが、家族同然の間柄を示し、その付き合いは一生続くものとなるでしょう。是非皆さんも奮って参加してみてください。きっと、楽しいひと時となることでしょう。

#### ○アルバイト募集について

学生会館では清掃業務は外部に委託して実施していますが、人員不足から次のように清掃作業をする方を募集します。

作業日 毎週金、土曜日  
時間 午前中2～3時間  
賃金 高額の予定

男女別は問いません。月単位で継続可能な方が望ましい。希望者がおりましたら、館長までお知らせください。

#### 『寄稿』

安部公房「箱男」を読んで

「きずあとだけは持っていて」 谷村行海

戦争のきずあとだけは持っていて

他には何にも持っていないはずだろう

弾丸を超能力者がやっつけてきて

くわんと曲げればくわんと雑魚だね

ポラロイドカメラのような人々も

季節にためらう暇はないのに

医学書に虫はしつかりついていて

(昨日と同じ虫のようだよ)

献血のたびに失う血液と

僕と一緒に覚えていてね

次号は交流会の様子をお知らせいたします。

平成二八年十一月八日発行

編集並びに発行元

公益財団法人岩手県学生援護会

岩手県学生会館

同 学生会自治会

住所 東京都豊島区要町二丁目5番5号

tel 03 (3972) 4783

fax 03 (6676) 4471